

## 5699部隊と私 「男たちの絆」

### ○ グループ、金泰勲（キムテフン）

私にとって大切なコミュニティである5699部隊は、私が去年まで勤務していた部隊です。韓国では男は18歳が過ぎると健全なる精神や体を持っている限り、軍隊に行かなければならないんです。私も例外ではなかったので19歳のとき入隊して去年まで今した。皆さんは韓国の軍人にどういうイメージを持っているかわかりませんが、多分思っているイメージとは少し違うと思います。もちろん北朝鮮と戦うために銃器や爆弾、核兵器に備えた訓練など厳しい訓練も受けますが、毎日そう厳しいわけではないです。土日と祝日ははちゃんと休むし、平日も2～3時間程度の自由時間があります。自由時間には売店でお菓子やラーメン、冷凍食品などを食べられるし、パソコンでフェイスブックなどもできます。あとサッカーやバスケット、卓球などの運動もできるし、ギターやピアノなど楽器の練習もできます。公衆電話もあり親や友達、恋人などに電話もできます。部屋ごとにテレビもあり結構楽しい自由時間をすごせます。

しかし、厳しいときもやっぱりあります。真夏と真冬に行く大規模訓練はもう二度としたくないくらい大変でした。真夏は大雨がふり、沼のようになった地面で匍匐訓練をしたり、20キロ以上の装備をして40キロを歩いたりしました。冬は夏ほどきつい訓練はしませんが、寒さだけで真夏の訓練を上回る厳しさを誇ります。零下20度以下のそとにテントを設置しそこで寝たら、次の朝、寝袋が凍りジャックがあかない状態にもなりました。今思い出せば思い出ではあるが、そのときは悪夢でした。

でも2年間の軍生活を無事に終えられたのは、一緒に過ごしてきた仲間たちがいたからです。ほぼ2年を毎日一緒に生活し、一緒に寝るため、仲良くならざるを得ないです。うれしいことも、つらいこともともに過ごしてきた仲間がいた5699部隊が私にとっては大切なコミュニティです。

### 取材散歩に行ってみて

私たちOグループは取材散歩として、駅とボウリングセンターに行きました。駅ではおやつを食べ、ボウリングセンターではボウリングをしました。軍人の頃、休暇が終わり部隊に帰る前、最後に必ず部隊の近くにあるロッテリアのハンバーガーを食べていました。ちょうど秋田駅にロッテリアがあったので、入りハンバーガーを食べました。韓国とメニューは違いましたが、とても懐かしかったです。しかし、ボウリングセンターと私の話し相手は全く関係がありませんでした。そこで気づいたことは、私のボウリングの実力はみっともないということです。前期にもビリでしたが、今度もビリでした。次は絶対ビリは避けたいです。

## 話し合い相手

今回の話し相手に選定した人は、同じ5699部隊と言うコミュニティに所属していた、パクヨンゴンという人です。彼は僕と入隊日が1週間しか違わない、いわゆる同期です。1か月約の訓練を終え、自隊に配置された時から除隊するときまで、ずっと同じ部屋で共に過ごしました。僕は書記兵で彼は炊事兵だったので、普段日課は全然別で共に仕事をするとはなかったが、一日の日課が終わり自由時間の時はずっと一緒でした。あと、たまに休暇が出る時も、日にちを合わせていつも一緒に出ました。好きなものも卓球やカラオケ、ゲームなどほぼ同じだったので、最初あった時から気が合いました。住んでるところが少し離れているため、頻繁に会うことはできないが、たまに会って一緒に遊びます。今も携帯やネットで連絡を取っています。そのため、彼を今度の話し相手と決めました。

## 話し合い結果

話し相手は今韓国にいますので、スマホのビデオ電話で話し合いました。半年以上ぶりなので、彼はとても懐かしがっていました。たぶん私も似たような顔だったでしょう。

さっそくでしたが、私にとってのうちの部隊はきつくもあったが、とても大切な経験をした場所だったと彼に話しました。彼はそれを聞いて「いきなり何を言いやがるのだ」と言いながら笑いました。それで、これは授業の一つであり、私が選んだテーマが、去年まで2年間を過ごしていた「5699部隊」であり、そこで一番長く、親しく暮らしていた君を話し相手として選んだといいました。彼は一瞬「はあ？」という感じで私を見つめました。私に協力してくれるといいました。

それでさっそく、彼にとってうちの部隊はどんな場所だったかを聞きました。彼は迷わず「二度と行きたくないところ」だと答えました。まあ、私も二度と行きたくはないが、じゃ、軍生活をしながらよかったことや、何か得たものはないかと聞きました。彼は一瞬迷って「気の合う友達と知り合えたことはとてもよかった、あと料理の実力が少し上がった」といいました。この友達は私とほぼ同じことを考えていました。まともな服も食べ物もない、自由もない、男だらけ、頻繁に夜中起こされる、きつい訓練をするなどきついことばかりの軍隊には二度と行きたくない。だが、そのきつい時を共に過ごしてきた仲間はさらに仲良くなった、ということです。

真冬の訓練の時、翌朝寝袋が凍ってしまいジャックが開かなかったことや、食堂のガスの火を消し忘れ、小規模の火事になったこと、シャワーの最中に非常訓練が実施され、泡の付いたままパンツ一枚で戦闘態勢を整えたこと、隊長にもものすごく怒られたことなど、当時には二度と思いついたことが、今話し合えば「そんなこともあったよな」と笑い話になりました。私は今日本にいるから軍人さんが全く見当たりませんが、韓国にいる彼は、たまに軍人を見かけると5699部隊のことな思い浮かぶといいます。そしてその軍人の階級を見て、その階級ごとに「ああ、あのときは文句を言うなんて考えられなかったよな」、「あの時は1日が1年のように長く感じたよな」などと追憶にふけるといいます。

もう私たちは兵役を終えたため、そのコミュニティには二度と行くことはないだろうが、私が韓国に帰ったら、一緒に暮らしていた仲間たちを集めて国内旅行に行くことにしました。ほぼ2年ぶりの再会がとても楽しみです。つらい時を一緒に過ごしてきた分、再会したらみんなとても懐かしいと思います。

## 5699部隊と私

このコミュニティが私にとって大切な理由は、きつい生活をずっとともにしてきた仲間ができたからです。多分仲間がいないと戦争はともかく毎日を暮らすことすらつらかったらと思うます。たまに嬉しい時やめでたいとき、つらいときや悲しいときも一緒にいてくれた仲間たちがいたからこそ、軍生活を無事に終えられたと思います。もう二度と行くことは戦争が起こらない限り多分ないだろうが、もし戦争が起きたら私は再び軍に入り戦う覚悟ができています。そのときも仲間たちがいたら多分、これから起きえるあらゆる状況にも立ち向かえらると思います。

「コミュニティ」「コミュニケーション」とは何か

今回の授業を受けてコミュニティという言葉について再び考えるようになりました。コミュニティはある目的や共通点をもっている人たちの集まりだとだけ思っていたが、ほかの友達の文を読んでみて社会など私が考えていたコミュニティの概念をはるかに超える形のコミュニティもあるなあと思いました。

クラスについての感想

前期に続いて後期も受講させていただきましたが、非常にいいクラスだと思います。初めて留学来た時にあまり知り合いがいなかったのも、このクラスを通して友達ができうれしかったです。そして各国の異なる文化などを話し合いながら外国の文化を学べるので、非常にいい授業だと思います。1年間ありがとうございました。